

## 研修と研究の一体化を目指して

昨年度、当研究所は「福井県教育研究所機能強化策の提言（平成26年2月）」を受け、組織を4課1室から3部1室へと改編され、今年度は2年目を迎えることになりました。

昨年度から3年間の中期目標を立てて取り組んできたチームでの研究も軌道に乗り、今年度は昨年度の実績と省察を踏まえた、より深化した研究を進めることができました。

共通する研究テーマは、『「何を教えるか」という知識の内容や量の改善に加え、「どのように学ぶか」という学びの質の向上や環境を重視した教育活動のあり方』で、今年度はいろいろな角度から研究した成果を研修という形に換えて、積極的に発信していくことに努めました。

研修部では、福井県の教育事情を鑑み、若手教員の資質向上をはかるための新たな組織を立ち上げました。また、昨年度確立した通信型研修・実践型集合研修・訪問研修を有機的に関連付けた研修体制から出てきた課題について考察するとともに、研修後の学びの広がりについて調査し、今後の方向性を探っています。

調査研究部では、3つのユニット（数学・英語・学力調査分析）での研究を学校訪問によって広め、次世代の教育の発信源となっていくことに力を注ぎました。数学ユニットでは、新しい学習スタイルと方法を取り入れたことによる成果と変容を全県下に広め、実践を進めながらその有効性について考察しています。英語ユニットでは「福井型18年教育」を踏まえた、小学校から高等学校までの「福井県英語学習CAN-DOリスト」の活用の在り方についての研究を進めています。学力調査分析ユニットでは、全国学力・学習状況調査と本県独自の学力調査（SASA）とを多角的に分析し、これから求められる学力観に沿った授業事例を提案して授業改善を促すことで、「福井型学力向上サイクル」を確立してきました。

教育相談部では、学級集団と学力の関係に着目した研究を進めるとともに、望ましい学級集団を築くための指導法を提案しています。また、家庭支援の機能強化についての在り方も探っています。

この紀要には、各部における研究チームの研究の過程、成果と課題、今後の研究の方向性などが記載されており、皆様からのご意見を頂ければ幸いです。

福井県教育研究所 所長 小和田 和義